

## 【街頭活動より】（コラム）

### 箱物よりソフトへ

災害に備える

### 普段使いのインフラ強靱化を

◇要点

- 1 市民サービスは市民の税金で賄われている。
- 2 伊達博物館の整備費用は60億円。
- 3 南海トラフ地震はいつか必ず発生する。
- 4 川の上にある建物は津波の影響を受けやすい。
- 5 上水道管路の耐震化が進められているが、十分ではない。
- 6 市民が誇りを持てる街づくりが重要である。
- 7 観光施設に多額の投資するも他と伍することは容易くない。

◇章とトピック

**1 市民サービスと税金の活用**  
市民サービスは市民が支払った税金によって提供されており。議員はその税金の有効活用ができていないかをチェックしたり、提案したりする仕事です。市民の暮らしを豊かにし、安全で安心な生活を提供するために、税金の使い方をさらに工夫する必要があるという理念の元に日々勤めています。

くり返しになりますが、市民サービスは市民の税金で賄われているのです。

議員は税金の使い方を議論し、市民の暮らしを向上させるための提案を行っています。

税金の有効活用で地域の魅力を高めること。暮らしやすさを向上させることが仕事だと思っています。

### 2 伊達博物館問題

伊達博物館の整備には60億円以上かかり、現段階で市民の税金15億円が投入されますが、出来た後も毎年1億6千万の赤字が発生するという試算があります。この赤字は市民の税金だけで賄われるため、他の市民サービスが確実に削られます。

うか。市民の声は聞かれているのでしょうか。私はそうは思いません。◆隈 研吾氏の設計デザインが、修繕等の将来負担が多額に及ぶということは、横野議員が触れられたとおりであります。その試算もなされておりません。つまり、先ほど申し上げました1億5、000万円を超える収支差額の上に、新伊達博物館が経年劣化により修繕が必要になった費用は見込まれていないわけでありです。

◆そしてまた、正月の能登の大地震で明らかになったこと、古い基礎の耐震が十分でないということが明らかになりました。さきの産建教育委員会で建設部から、くいは350ガルの耐震強度であると説明を受けました。阪神・淡路大震災は800ガルを超えました。東日本大震災では2、900ガルを超え、熊本は1、500ガル、能登半島の大地震では1、000ガルを超えた地点が7か所もある。そして、最大は2、800ガルの揺れを観測いたしました。地震の大きさを震度6強とか7とかという大雑把な数字でおうのではなく、科学的な揺れの速さ、加速度で測るべきなのです。つまり、350ガルの基礎に載った伊達博物館は、その基礎から落ちるなどして、後に訪れる津波で大きく壊れてしまつと思えます。◆いかがでしょうか。現計画を見直した場合の影響の3番目に、南海トラフにより現伊達博物館が影響を受ける、だから建設を急がなければならぬという説明がございました。新しい伊達博物館になつても、現計画のままでは、古い基礎が壊れ、基礎から建物が落ちてしまう恐れがあるのです。輪島市の市営住宅は、古い基礎から1・5メートルも建物が離れる事態に陥りました。◆現計画を見直すべきという声に、どうか耳を貸していただけないでしょうか。現伊達博物館あるいは現在の保管庫が十分な品質を保てないというものであれば、保管庫を建て直して、そして現伊達博物館に手を入れて、そこにソフトを入れることによって、私は、この宇和島歴史博物館を後世につなぐ財産として、充分価値あるものとして活かすことができると思えます。◆本日の採決

### 3 南海トラフ地震への備え

南海トラフ地震に備えるために、普段使いのインフラや公共施設の耐震化が重要であると考えています。地震が発生した際に大きな被害を受けないように事前の準備を進めるべきです。南海トラフ地震はいつか発生します。ならばどう備えるべきなのでしょう。何をどう備えるか議論が必要ですが、事前の準備が被害を軽減することは確かでありです。

### 4 川の上の建物の安全性と移転

例えば、畑枝川・大池川の上にある住宅や店舗は、南海トラフの大地震の際に極めて危険です。市役所はこれらを安全な場所へ移転することを支援する方針であるようですが、川の上にある建物は津波の被害を受け、多数の犠牲者が出る恐れがあります。行政はこの危機を解決するために積極的な投資を行うべきだと考えています。伊達博の建替よりも先に取り組むべきだと思いますせんか。

### 5 インフラの耐震化と市民サービス

宇和島市はインフラの耐震化に資金を投入し、市民が安心して暮らせる環境を整えることを目指すべきだと思います。例えば、上水道の管路の耐震化が進められていますが、進捗率は充分なもので無く、避難所等の重要施設の水供給さえままならない場所があるようです。今一度、備えられる部分について備えていくインフラ投資を検討すべきだと思います。

### 6 伊達博物館の建設と市民の意識

伊達博物館の建設に60億円をかけることに対して、市民の間で議論が必要であります。博物館整備よりも市民が誇りを持てる街づくりというものは発想できないのでしょうか。

### 7 観光とインフラ投資のパラドクス

観光施設に多額の投資をするよりも、市民が暮らしやすいインフラ整備に資金を投入するべきだと思うのです。また、観光客を呼び込むには、魅力的な展示や地域の魅力を伝えるソフト部分が大切だと思いますせんか。また、観光施設に多額の投資をするにも限界があ

の賛否は、拮抗しているというふうに予想をしています。例えば12対11の採決結果であったときに、市民が一体となって、この宇和島の歴史をつなぐために、新しい伊達博物館が必要だということになるのでしょうか。その拮抗した賛否の結果が出たら、現計画を立ち止まり、市民の声を聞いて、どのようにして宇和島を後世へつなぐのか、考え直すことが必要だと思います。どうか議員の皆さん、御自分に、そして周りから声をかけていただく市民の方の声に忠実になっていただきたいと思えます。畑枝川は国土強靱化の予算で何とでもなりましよう。そして国が、市民の納得を得られないからといって見直したことに對して、ノーというレッテルを貼るわけはございません。必要なところには財政措置をするのが国の役目であります。◆よろしく御賛同いただきますことをお願いいたします。私の修正案に対する賛成討論といたします。

※2024年9月、伊達博整備予算6億円増額するという補正予算が提案されました。

◇2024年6月定例会議会で質問しました。

### 1 新伊達博物館整備について

#### ① 入札不調の原因をどう捉えているか

**【答弁 建設部長】**2回目の入札不調の原因については、現在業者等にヒアリングをするなど分析を進めているところですが、金額が合わないことに加え、東京、大阪などで建設ラッシュによる技術者が不足していること、設備の下請業者が捕まらないことなどの回答を得ています。

②設計変更は考えていないようだが、整備費用の増額はどこまで認めるつもりか

**【答弁 市長】**現在、この事業の、言ったらバックアップといいますが、裏打ちされているものは、やはり財源であるということとは間違いないところであり。現在の、国の大いなるバックアップをいただきながら、事業というものは推進している中で、ただ、これについて今そ

ります。年間1千万人が来場する施設の新しいアトラクションへの投資額には500億を超えるところもあります。太刀打ちが出来るというのでしょうか。私は、まずは、市民が暮らしやすいインフラ整備が重要だと考えています。普段使いのインフラ整備で、住みよい地域づくりが来訪者を迎えるための土台となります。

◇提案

税金の使い方を工夫し、地域の魅力を高めることが重要である。

伊達博物館に投資するよりも、南海トラフ地震に備えるためのインフラ整備に資金を使うべきである。

普段使いのインフラや施設の耐震化に資金を投入することが優先されるべきである。

それも、地元の工務店や土木業者を最大限活用して投資した資金を地域で回すことが良い。

普段使いのインフラに資金を投入する。

市民が納得できる街づくりを優先する。

博物館は、宇和島歴史・自然博物館として、ソフト部分を充実させるべき。建物より、工夫した展示を行い、地域の魅力を伝える役割を負うべき。

(24年12月9日の街頭活動のスピーチをa1で要約しています。)

## 議会活動

◇2024年9月議会にて伊達博物館整備費用の増額に反対する「討論」を行いました。

◆新伊達博物館の建設計画は、財政的負担として耐震性の問題があり、考え直すことが必要です。60億円のお金をかけ出来上がった伊達博物館は、毎年1億5、000万円を超える収支差額が出ます。私は、この収支差額を未来の宇和島市民に背負わすことを良しとはいたしません。新伊達博物館の建設は、地域の歴史や文化を引き継ぐために必須のものではありません。今の計画に市民が一致して賛同しているというのではな

ういった環境下にあるところでございますので、やはりこういった皆様方からいろいろな御意見いただいて出来上がった今回の案については、やはり大切にしていきたいと思えますし、それについて何か上限を設けるということは今考えていないところでございます。ただ、それだけ持ち出しがあるかとか、これよくある話ですけども、そういった価値観というものは忘れずにはいたい、そのように思っております。

③予算増額が更にあつた場合も市民向けの説明は議員が行うのか

**【武田】**私はこういった地域の大切なものを整備する事業は、財源ありきであつてはならないと思えます。もちろん有利な起債あるいは国の補助制度など利用して整備していくのは、うまい方法かもしれませんが、本当に必要なであれば単費でも行うべきだし、国の借金が許されなくてもやります。学生でもどうしてもこれ欲しいと思つたら、バイトして買つとかということになると思つんです。

で、整備費用が増額しています。先ほどのグラフのように、8%とか10%とかさらに上がるようになっていきます。もつと申し上げれば、この建築費指数表以上に実勢価格というのが上がっているようです。そんな中で、さらに10%上がったとしたら、4億円5億円上がるということになります。そうすると、巷で言われている、60億円になつても伊達博やるのかいという話になるんです。その際の市民向けの説明は、再び私もは理解を不十分のまま、数字も示されないままに議員が行うものと市長は考えていますか。

**【答弁 市長】**そうならないように、今そういった原因等々探っているところでございますし、もともとがこの建設をめぐる様々な議会での決定をいただき、予算はつけられて、一定この建設に関する是非については、一区切りをつけているものだと思っております。今後、そういった案件につきましては、やはり市民の皆様のご代表である市議の皆様方とお話をしていくこと、私はそれが重要だと思っております。